

講義名	租税論			
担当教員	三原 裕子			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
主題と概要				
我々が暮らす日本では様々な問題を抱えています。その1つに財政上の問題があります。少子高齢化が進む中、歳入と歳出のバランスが崩れ、それによる社会保障制度の維持可能性や公債発行残高の年々の上昇などが喫緊の課題としてあげることができます。これら財政が抱える諸問題を解決するためには、税の引上げは避けることが出来ません。しかしながら、財政問題を解決するための租税の引上げは我々の暮らしに影響を及ぼすこととなります。そこで、本講義では租税の性質や効果、影響についての理解を深めることを目的にします。				
到達目標				
経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事を判断できるための力を養うことができる。 税制度が抱える諸問題について分析、評価できるようになるための知識を身につけることができる。 * 新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、オンデマンドへの移動はせず、その期間のみ課題学習などによって対応します。				
提出課題				
課題については講義中およびRyuka Portalの講義連絡にて適宜指示をします。				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
小テストや宿題は次回の講義始めに解説を行います。				
評価の基準				
課題（小テストを含む）50%、学期末レポート50%により評価します。				
履修にあたっての注意・助言他				
受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。 授業では一次関数、方程式など必要最低限の数学を多用します。 この科目の到達目標の実現のために、毎回出席し、課題を提出してください。 Ryuka Portalの講義連絡等をしっかりと確認してください。 【対面のみ】 講義中の録音／録画／撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。				

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

レジュメ等はRyuka Portalの講義連絡を用いて配信しますので、各自ダウンロードなどして準備をして下さい。

主な参考文献
・林正寿『租税論』有斐閣、2008
その他参考文献については授業中に適宜紹介します。

授業計画

1. 租税論とは
2. 経済が直面する3つの課題
3. 財政の資源配分機能
4. 日本の租税構造
5. 日本の租税制度の歴史
6. 応益原則と応能原則
7. 応益原則による租税負担の配分
8. 応能原則による租税負担の配分
9. 中立性の原則と社会余剰
10. 消費税と超過負担(1)
11. 消費税と超過負担(2)
12. ラムゼイのルール
13. 租税の転嫁と帰着
14. 所得税と消費税の特徴
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・各回の授業内容について、資料をまとめるなど復習を90分程度で行ってください（特に重要な箇所は授業中に指示します）。
・次回の授業内容についての予習を配布資料を用いて60分程度で行ってください。
・授業中に講された課題等について90分程度で行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済学基礎的な知識の習得（目標(1)）により、人間、社会、自然に関する学問的成果の基礎を身に付け、税制度に関する理論的な理解を深めることにより、現代社会の諸問題を発見、課題解決の提案が出来るようになり、共通DPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

アンケート、小テスト、課題などの回収をクリックカー（Respon）にて行います。

実務経験の有無及び活用

備考

【対面授業を履修する場合】
一時的に通学困難になった場合、オンデマンド授業への移動は行わず、対面授業の中での対応を行いますので、ご注意ください。